

草の根技術協力事業（草の根パートナー型）
国際ボランティアセンター山形（IVY）
女性参加手法による循環型複合農業プロジェクト

初年度終了にあたっての事業見直し・再編案

はじめに

IVY にとって、JICA 技術協力事業は組織としてのキャパシティーを高め、より多くの受益者を対象とするプロジェクトを行うまたとない機会となった。従来は活動内容、対象ともに規模が限られていたが、活動対象が広がったことにより数村を相対的に比較することができるようになったこと、それによってこれまで行ってきた活動内容を検証することができるようになったこと、さらに草の根事業の実施を通じてこれまで以上にプロジェクトマネジメントの有効性・効率性を問われることになったことは組織としても大きな飛躍をするきっかけとなった。

ただし、事業開始以来の9ヶ月間のプロジェクト活動は試行錯誤の連続だったと言っても過言ではない。なかには予想外の結果が出てきた活動や仮定が覆される事態もあり、計画実行のかたわら常に経験と学習を積み重ねた期間ともなった。この試行錯誤の過程からいくつかの新たな意見・認識が浮かんできた。次項セクション1はIVYとして新たに得た知見をもとに初年度7ヶ月間の活動の振り返りを行った結果をまとめたものである。この振り返りを出発点とし、プロジェクト実施の進展状況、またプロジェクト活動地の現状と照らし合わせながらIVY内部で当初のプロジェクト計画の見直しを行った結果、当初のプロジェクト計画にいくつかの大きな変更を加える必要があるという結論に至った。プロジェクト再編案のうち、当初のプロジェクト計画からの主な変更点をセクション2に示し、各プロジェクト活動の概要をセクション3に提示するとともに、別添資料としてプロジェクト・デザイン・マトリックスを添付する。

セクション1：活動振り返りから抽出された学習点

1) 男性の参加がもたらすマイナス面

IVY はこれまで9ヶ月間に、女性のエンパワーメントが比較的達成された先行2村において、参加者を女性に限定しないワークショップを数度開催した。そこから判明したのは、男性参加者はトレーニングやワークショップへの参加に当たって、しばしば日当を要求することであった。それに対し女性は、無償であっても、参加や学習に対して熱心な姿勢を示す。また、女性がトレーニングで学んだ内容をすぐに実践するのに比べ、ワークショップに参加した男性には実践している形跡が見られなかった。さらに、対象地域の男性には、情報を他者に伝えようとする傾向が認められ、他の村人へ知識や技術、情報を仲介する役割には適さない。一方で、女性がトレーニングやワークショップに参加した場合、ほとんどの参加者はその日のトレーニング内容や情報を

家族や親戚、なかでも夫に話して共有している。このことから、男性に比べて女性の方が、グループ活動などの共同作業に対して熱意を持ち、積極的に時間や労力を割くと言える。

2) きめ細かな対応の必要

事業の実施を通じ、一口に事業対象地域とくくっているものの現在活動を展開中の14村には貧困の程度、出稼ぎの状況、NGOとの協働に対する村長の態度などさまざまな違いがあることが、より強く認識されることとなった。例えば、ドンソー地区に位置するバンカイ村では、IVYの活動に対する関心が非常に高い。対象地域の1村当りの平均的なグループ数が4.4、平均的な参加女性数が40.6人であるのに比較し、バンカイ村では11の女性グループが活動中、135人が参加している。その結果、アクセスが悪いことと併せ、IVYスタッフは当初予定していたよりも多くの時間と労力をバンカイ村での活動に費やしている。また、チューティール地区のチュクソー村では、マイクロクレジットが引き起こした多重債務に苦しむ村人の、NGOに対する警戒心が強く、それを払拭するために、スタッフがワークショップやミーティング以外にも頻りに足を運んで信頼関係を強めなければならない。こうした例に見られるように各村のおかれた社会的・経済的状況や村人のニーズはそれぞれ異なり、ひいては各村の状況に変化を起こしうるきっかけもそれぞれ違うと言えよう。事業の実施にあたってはこのような違いを十分に汲み取り、個別の対応をしていく必要がある。

3) 目標の絞込み

IVYは過去9ヶ月の活動を通じ、事業実施地域における第一のニーズは、「循環型複合農業」という農業システムではなく、基礎農業技術の向上にあると認識を改めた。つまり、少数の農民が循環型複合農業を導入することを目指すことは止め、多数の村の女性に対する、現状に沿った農業技術の向上に絞り込んだ方が、より直接的に生活の安定に結びつきやすいのではないかという考えが強まってきたのである。ただし、事業対象者のニーズに応えつつも、地域に適した農業システムの確立の途を探ることが重要であるという認識は依然変わることではない。そのためにも、持続可能な農業とは何なのか、どのような方法があるのか、という問いを事業対象者に対し常に発し、彼女らの自発的な検討と実践を促すことを重視する。

セクション2：事業再編案における当初計画からの主な変更点

以上のような学習点から、IVYとして以下に示す3点を中心とした見直しを加え、事業再編を行いたいと考えている。3つの変更点を織り込んだ事業計画の概要はセクション3、および別添のPDMに示す。

1) プロジェクト名およびプロジェクト目標

上記の学習点第3をふまえ、プロジェクト名をこれまでの「女性参加型手法による循環型複合農

業プロジェクト」から「持続可能な農業を通じた女性による農村開発プロジェクト」としたい。これに併せ、プロジェクト目標および指標も限定・小数の農民により循環型複合農業が導入されることを削り、より広範な対象者が持続可能な農業に関する知識・技術を向上させることだけに絞り込む。

2) 事業対象者

学習点の第1をふまえ、主な対象者を村の女性としたい。村の男性に対しては、女性を通じて間接的に情報提供・技能指導をする機会をもうけるなど受益者として本プロジェクトの効果が共有されるようにはかる。

3) 対象地域

学習点の第2に述べたとおり、対象村ごとに状況が異なるため、個別に対応する必要がある。そのため、当初3地区16村とされていた対象地域を2地区14村と変更したい。

セクション3：事業計画の概要

再編事業計画は2段階、7ステップの過程で構成される。ただし、第1段階と第2段階は以下に説明される「女性グループ」と「女性組合」の活動のどちらに主眼がおかれるかによって便宜上区分されたに過ぎず、現実には2つの段階の活動が平行して進められることになる。

第1段階：女性グループ活動の開始と持続可能な農業への着手

第1段階第1ステップ：グループ活動開始

1-1-1 基礎調査

活動開始にあたり対象村の住民に対し基礎調査を行う。当団体スタッフが作成した調査票を元に家族構成、米の作付面積、収穫高、自給率、収入、家畜数、家庭菜園普及率、トレーニング経験などを聞き取る。対象各村において世帯数の10%程度を調査予定。

1-1-2 住民説明会

基礎調査終了後、男女を問わず村の住民を対象とした説明会を開催し、本プロジェクトの目的を説明する。主な内容は、日本および山形県の紹介、IVYのこれまでの活動説明、本プロジェクトの趣旨など。文字が読めない人が萎縮しないよう、視覚的に理解が得られるようなツールを使用し、ゲームなどを取り入れて楽しい雰囲気作りを心がける。

1-1-3 PLA

説明開会最後、村の事前女性を対象に5回シリーズのPLAワークショップを行う。参加者は少

人数のグループに分かれ、村の現状、問題点、原因について話し合い共通理解を得る。その後、さらに問題を整理しながら参加者全員で解決方法について話し合う。

1-1-4 女性グループ結成ワークショップ

PLA ワークショップの後、「相互扶助とは何か」を話し合い、女性による相互扶助グループ活動を紹介するワークショップを開催する。グループ活動の概要、メリット、会員になるのに必要な条件や方法についての話し合いが IVY スタッフのファシリテーションによってもたれる。グループ参加を希望する女性は IVY スタッフの支援を受けて女性グループを結成する。メンバーの人数は10名程度が目安とされるが、最終的には各グループの決定にゆだねられる。グループ結成の条件は、1) リーダーとサブリーダーを選定すること、2) グループ貯蓄を行うこと、3) 毎月集会を持つこと、4) IVY 主催の農業基礎講座の受講。

第1段階・第2ステップ：グループ活動の奨励

1-2-1 第1回・第2回女性グループ集会

IVY スタッフのファシリテーションの下、第1回・第2回女性グループ集会が開かれ、リーダーとサブリーダーを選出する。グループ名や貯蓄の月当たり積立額を含めたグループのルールも決定する。

1-2-2 グループ月例集会

グループ内のコミュニケーション促進と結束の強化のために月例集会がグループごとに開かれる。IVY スタッフは集会がスムーズに進行するための後方支援に回り、リーダーとサブリーダーが月例集会を取りまとめる。月例集会の議題は貯蓄金での活動内容などグループメンバーが自由に挙げる。

1-2-3 貯蓄活動

女性グループはグループ活動の資金を得るため、グループ結成後貯蓄を開始する。貯蓄額、貯蓄の頻度は各グループが決定する。メンバーが毎回リーダー宅に貯蓄金を持参し、貯蓄金の管理はリーダーが行うであろうことが予想される。IVY はリーダーに対し会計簿のつけ方、貯蓄金の安全で明確な管理などについて助言を行い、必要に応じてトレーニングをする。

1-2-4 リーダーワークショップ

女性グループリーダーおよびサブリーダーを対象とした6回シリーズのワークショップを開催する。内容は1) リーダーの役割、2) グループ活動とは・月例集会の準備、3) ファシリテーターの役割と基礎知識、4) 時間の管理・問題の解決、5) 意思の決定・情報収集と共有、6) 練習とワークショップの評価。ワークショップは参加型で行われ、女性の自由な意見交換を引き出す。

1-2-5 農業基礎講座

女性グループの貯蓄は農業活動に使われることが予想されるため、その活動支援として、IVY ではグループメンバーに対し基礎栄養講座、基礎家庭菜園講座、基礎鶏・豚飼育講座などを設ける。講座終了後も、家庭菜園の維持や家畜飼育技術の向上などの個別のフォローアップに IVY スタッフが応じる。

1-2-6 情報交換の機会

IVY はプロジェクト対象地内でのフィールドトリップなどを通じ、女性グループメンバーが他の女性グループのメンバーと交流する機会を提供する。この交流を通じ、グループメンバーが村の状況を比較したりネットワークを構築したりするきっかけとなることが期待される。

第1段階第3ステップ：持続可能な農業への取り組み

1-3-1 IVY 試験農場での実験活動

地域に適合した、地域の農民のための農業のありかたや農業技術を探るため、IVY 試験農場では稲作、果樹栽培、野菜作り、養魚、養鶏などさまざまな分野で農業を持続可能な形で行うための実験が行われる。実験計画を始め経過、結果のデータなどは全て記録され、プロジェクト対象者に対する普及活動に取り込まれる。

1-3-2 持続可能な農業ベスト事例

IVY は「持続可能な農業ベスト事例」の選定基準を設定し、プロジェクト対象地において持続可能な農業を実践している農民を見つけ出す。地域における持続可能な農業の実践者との協力関係をつくることで、IVY を通じて、またはプロジェクト対象者に直接ノウハウの伝授をするなどキーパーソンとしての役割が期待される。

1-3-3 IVY 農業調査

女性グループの農業基礎講座の開設に先立ち、IVY では農業調査票を準備し、基礎調査では調査しきれなかったプロジェクト対象村における家庭菜園、果樹栽培、家畜飼育、稲作、養魚など詳細な農業の状況を調べる。一般的な栽培もしくは飼育の状況のほか、村人の知識・技能のレベル、村のなかで特記されるべき活動なども調査項目に含まれる。

第2段階：女性組合と農業学習会

女性グループにおいては少人数のメンバーがグループごとに個別の活動を行うことになっている。しかし貯蓄が活動の核をなすため、貯蓄ができない村の最貧困層を取り込むことは通常困難である。最貧困層を含め、多数の女性を活動に巻き込むためにも IVY は村の女性に対し女性組合を組織するよう働きかける。この女性組合は草の根自治・生活改善を目的とした組織という性格を持ち、村落開発委員会（VDC）など多くの場合十全に機能しているとは言いがたい地域開発・自治組織を、女性の視点に立った活動を通じて、補完する役割も担うことが期待される。

第2段階・第1ステップ：女性組合設立の支援

2-1-1 女性組合設立の呼びかけ

IVY は村の女性グループのメンバー、非メンバーを問わず村の全女性を対象としたワークショップを開き、女性組合の設立を呼びかける。このワークショップでは村の女性が女性組合とはそもそも何か、ということを理解すること、ワークショップをきっかけに女性組合設立の動きがスタートすることが目的とされる。IVY は女性グループのリーダーの手助けを得てワークショップの準備およびファシリテーションを行う。ワークショップ開催後の1ヵ月間、IVY は女性グループ、特に女性グループリーダーの手を借り、女性組合設立に関する情報をすべての村の女性にいきわたらせる。

2-1-2 女性組合リーダー

村の女性が主体的にリーダーを選び出すことを目指し、女性組合リーダーは選挙によって選出される。女性組合リーダーの選挙は、それまでは地域開発・自治組織の選出や運営において2次的な役割に甘んじてきた村の女性が草の根自治組織の設立に実質的に参加する初めての機会ともなりうる。通常リーダーグループは会長、副会長、書記、会計、補佐役、相談役から構成され、女性組合の活動の取りまとめ、NGO や地方自治組織、その他の主な公職者・団体との連絡、調整を行う。候補者の要件（18歳以上の成人女性で読み・書き・計算ができ、健康で正直、尊敬すべき人物であること、地域の問題にボランティアとして取り組めること）に応じた自薦・他薦の指名の期間は2週間。指名された候補者は、最終的に次項に述べる村落選挙委員会から候補者としての承認を得ねばならない。

2-1-3 選挙委員会集会

村の女性が女性組合設立の意義を理解し、設立の機運が盛り上がって来たところで、女性組合リーダー選出選挙に向け、村長、教師、村落開発委員、在俗僧侶等村のキーパーソンから成る村落選挙委員会が結成される。選挙委員会は選挙が自由公正に行われるよう中立を保ちつつ選挙の手続きの詳細を決定し準備を進める。また、女性組合はNGO が外部からやってきて勝手につくったものではない、自分たちで作った草の根地方自治組織だと村人が認識できるようになる上で、村落選挙委員が果たす役割は大きい。第1回の選挙委員会集会では、通常1)議長、2)副議長、3)書記、4)補佐役、5)相談役によって構成される選挙委員会の役割・責任分担について話し合われる。以降の周回においてもIVY は選挙委員会のメンバーが過去の経験を生かしつつ議論が深められるよう支援をし、また選挙が公正・民主的に行われるよう必要に応じて助言もする。選挙手続きの詳細が決定次第、選挙委員は少なくとも2週間前までに村の女性に対し選挙の開催とその意義を公示しなければならない。IVY は村の様子を観察し、村の全ての女性が選挙についての情報を得て意義を理解するよう側面支援をする。

2-1-4 女性組合リーダー選挙

選挙が有効に成立するためには、村の成人女性の60%以上が投票をせねばならない。選出され

る女性組合リーダー数は、村の人口に応じて5、7、9、11人のいずれかになる。選挙当日、投票に先立ち選挙委員は有権者に投票方法を説明し、候補者を紹介する。選挙委員会は地区長 (Commune Council)、近隣村の村長、村の男性、IVY スタッフをオブザーバーとして招く。選挙結果は同日内に村内で公示されるほか、スパイリエン州地方開発局など地区・郡および州の主だった公的機関に議事録と合わせて報告される。

2-1-5 女性組合リーダー集会

選挙開催の一週間後、当選したリーダー、選挙委員会と IVY は第1回集会を開き、選挙結果の振り返りをするとともに2-1-2で述べたような組合リーダーの役割、責任、構成などについて話し合う。IVY は組合リーダーが自分たちでリーダーグループ内の構成を話し合っ決めてられるように促す。またその後もリーダーたちは4回にわたって IVY のファシリテートのもと組合規約について話し合う。規約は組合年次総会で組合員による承認を受ける。

2-1-6 リーダーの能力開発

女性リーダーが地域開発について理解し、リーダーシップを発揮しつつファシリテーション、計画作りなどができるように IVY はリーダーに対してトレーニングを行う。トレーニングは女性リーダーのやる気を引き出し、彼女らが自信を持って組合活動に取り組めるよう、計画立案や実施にあたって必要な基礎知識やノウハウが伝えられる。

第2段階・第2ステップ：農業トレーニング

2-2-1 農業学習会

IVY は、女性組合の活動の一環として、彼女らが家庭菜園、家畜飼育、稲作、養魚などの農業学習会を作り、参加するよう働きかける。これらの学習会は定期会合を開いて実践から得られた知識を会員間で共有するとともに、IVY としても持続可能な農業の実践講座を設けて個別の指導にも当たるなど会員のスキルアップを図る。さらに、学習会の中から選ばれた「農業普及ボランティア」に、普及活動を行えるよう、ファシリテーション技術などを身につける機会を提供する。

2-2-2 フィールド見学会

フィールド見学会は村人の農業技術を高める上で有効な手段の一つである。1-3-2で述べたように IVY は特筆すべき技術を持つ農民や、農業活動を成功裏に実施している NGO を調査し、見学会の手配をする。こうした見学会は、農業学習会の会員が村内外で実地に行われている農業について学んだり意見を交換したりする機会となる。見学会のあとには、参加者による報告会が村内で開催される。

2-2-3 知識の共有

学習会を通じてメンバーが得た持続可能な農業に関する知識・技能を、学習会メンバー以外の男性を含む村人に共有していくよう働きかける。知識・技能の共有にあたっては、ワークショップやトレーニングコースの開催などを通じて普及ボランティアが大きな役割を果たすことが期待さ

れる。また、女性グループ活動によって形成された人間関係を通じて、普及の確実性がより高まる。活動が継続されていくよう、学習会と女性組合リーダーが連絡を取り合い、おたがいの活動を調整しながら、計画を立てて実行ができるように支援する。

第2段階・第3ステップ：女性組合による地域開発活動

2-3-1 女性組合の独自の活動

農業活動以外の分野においても、組合員・リーダーが自ら村の問題点や村の女性のニーズを洗い出し、彼女らの手に届く範囲内で活動の計画を立てて実践ができるよう側面支援をする。村の発展向上のために女性組合が計画することが予想される活動には米銀行、家畜銀行、最貧困家庭支援などがある。

2-3-2 女性組合への物的援助

女性組合が独自の活動の計画を立案したところで、IVYは初期の活動基盤として一定の物的援助を行う。これは、女性組合が少なくとも設立当初は自己資金がないためである。村ごとに作られる各女性組合とその計画に個別に対応するため、当初の物的支援の内容についてはそれぞれの組合のリーダーとの話し合いによって決定する。これは女性活動が計画した活動を検証するとともに必要なだけの援助をする、反対に言えば必要以上の援助をしないという予防的意味もある。以下2-3-5にのべるように、女性組合が自ら活動資金をつくりだす必要性を認識するように、援助は初年度から次年度にかけて斬減させる。

2-3-3 女性組合と村の有力者との協力関係構築

村長や村落開発委員会、地区長などとの協力関係構築は、女性組合活動をスムーズに進め成功に導く上で欠かせない点である。IVYは女性組合と村長らが緊密な協力関係を築き、村長が女性組合のよきアドバイザーとなるよう促す。また、村長を女性組合の各種会議に積極的に参加するよう働きかける。

2-3-4 他の女性組合との交流

他村の女性組合が行うワークショップや集会に参加する機会を設け、対象地域内の女性組合がお互いに交流を深め、情報交換ができるようにはかる。女性組合リーダーに対しては、彼女らが地域の問題に対してより積極的に取り組むようになることを目的とし、女性組合以外の草の根地域開発組織との交流の機会を提供する。

2-3-5 組合基金づくり

IVYは女性組合に対し、活動を継続するために必要となる組合基金を準備するよう促す。現時点で予想される基金作りの方法は、家畜銀行、米の販売などからあがる現金収入だが、その他、村人や篤志家からの寄付を募る。

第2段階・第4ステップ：モニタリングと評価

2-4-1 中間評価

IVY の全てのスタッフが参加し、アプローチと実施の状況を振り返る中間評価が2004年末に行われる。中間評価での振り返りは、それまでの活動の検証、その後の活動の軌道修正などを行って最終的にプロジェクトゴールを達成するためにも非常に重要となる。

2-4-2 女性組合評価ワークショップ

対象村でのプロジェクト活動終了を前に、女性組合活動を振り返る参加型評価ワークショップを開催する。ワークショップには女性組合員とともに組合活動に参加しなかった村の女性も招かれ、IVY の3年間のプロジェクトによって生活がどのように変化したか、プロジェクト終了後の活動をどのように継続するかなどについて話し合われる。ワークショップに先立ち、IVY は組合リーダーとワークショップの構成、内容などを綿密に検討し、また組合リーダーは IVY スタッフとともにワークショップのファシリテーションも分担する。

2-4-3 終了時調査

プロジェクト終了にあたり、IVY では基礎調査と農業調査に対応する形でプロジェクト実施に係るデータ調査を行う。具体的には、組合員の組織率、家庭菜園や家畜飼育などの知識の向上と実践状況、栄養知識、収入の状況、食糧自給率などのデータが聞き取り調査で集められる。集計されたデータはプロジェクト最終評価に使われる。

2-4-4 終了時評価

3年間のプロジェクトの終了時に全スタッフが参加しての終了時評価を行い、目標の達成度、過程の妥当性を評価し、終了後の活動展開に生かすための反省点などを洗い出す。農業調査のデータなどを使い、プロジェクト前後での村の状況の変化を検討する。